

# こめら × 自然 × 藝術

アート



## 雪を感じる 冬のひと時 アートワークショップ 「雪と歩く - 冬の空、冬の森 -」

福島県立博物館の主  
催、只見町ブナセンタ  
ーの共催で「福島藝術計画  
2024『雪と歩く-冬  
の空、冬の森-』のアー  
トワークショップが、3  
月2日にただみ・ブナと  
川のミュージアムで開催  
され町内外の子どもから  
大人まで29人が参加しま  
した。

ワークショップは「雪」  
をテーマに、野外での雪  
の観察やミュージアムで  
溶けた雪の行方の解説が  
行われました。

また、アーティストの  
岩田とも子さんを講師に、  
白いアクリル絵の具を指  
先につけて、アクリル板  
に、降っている雪や積も  
った雪、とけた雪の行方  
などを描く創作活動を行  
いました。

参加者は、思い思いに  
雪を描いて楽しんだワー  
クショップとなりました。



▶ 講師を務めた岩田さん



▶ 積雪の観察する参加者たち



▶ 作品を紹介する参加者



▶ 思いのまま雪の行方を表現する子ども

# 福島藝術計画 2024



11月10日、17日で開催した「ブナの森の大きな地図と小さな地図」の作品

## 子どもたちのアート作品で只見町を感じる

福島県立博物館主催と只見町ブナセンターでは昨年から今年の冬にかけて3回の主に子ども向けのアートワークショップを開催してきました。これらのワークショップで作られた作品について、2月よりJR只見駅舎内の待合スペースで展示をしています。

また、只見線子ども会はこの待合スペースを「只見BAUM」と名付け、只見町の人の温かさ、ブナ林や雪の自然、只見線、人とのつながりが木の年輪のようにつながるようにと思いを込めました。

子供たちの自然体験を通して出てきた発想のもとで作られたアート作品の展示により、只見町を訪れた方へ只見の自然、人、只見線をPRする空間になっています。

※BAUM:ドイツ語で木や樹木といった意味



▲3月2日開催のワークショップで描いた作品も展示しています。



▲子どもたちの作品が展示されている「只見BAUM」